



**公開シンポジウム**  
**「アンデス文明初期の神殿と権力生成」**

日時：2016年1月30日(土)～31日(日)  
場所：キャンパス・イノベーションセンター東京  
主催：科学研究費助成事業 基盤研究(S)  
「権力の生成と変容からみたアンデス文明史の再構築」  
協力：古代アメリカ学会  
企画：関 雄二

南米太平洋岸に成立した古代アンデス文明。今から55年以上前に日本人のバイオニア的アンデス研究が開始され、以来、今日に至るまでさまざまな成果をあげてきた。とくにアンデス文明初期の形成期(前3000年～西暦紀元前後)と呼ばれる時代に焦点を絞った研究は、その時代に社会統合の中心的役割を担った神殿の建設とそこでの活動をじょじょに明らかにし、世界の古代文明のなかでもひょろひょろに珍しい発展過程を経てきたことを国内外に示してきた。本シンポジウムは、こうした研究の蓄積を基礎に置きながらも、権力の生成という新たな視点で、さらに高度な研究を推進すべく過去5年にわたって実施してきた科研費基盤研究(S)「権力の生成と変容からみたアンデス文明史の再構築」の総括として開催された。そこでは、マイクロ・レベル研究として、ペルー北高地に位置するパコパンパ遺跡の発掘調査データの解析を分野横断的に考察し、さらに周辺遺跡の研究成果と比較することで、権力の生成と発展に迫った。計13本の専門的な発表ながら、参加者は70名を数え、質疑応答や討論も活発に行われた。

**国際ワークショップ**  
**「フォーラム型情報ミュージアムのシステム構築に向けて——オンライン協働環境作りのための理念と技術的側面の検討」**

日時：2016年2月11日(木・祝)～12日(金)  
場所：国立民族学博物館  
主催：国立民族学博物館  
後援：日本文化人類学会  
共催：国立民族学博物館 「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」プロジェクト  
科学研究費助成事業 基盤研究(A)  
「ネットワーク型博物館学の創成」(研究代表者：須藤健一)  
科学研究費助成事業 若手研究(A)  
「日本国内の民族学博物館資料を用いた知の共有と継承に関する文化人類学的研究」(研究代表者：伊藤敦規)  
企画：伊藤敦規

民博は現在、ソースコミュニティや学術機関とともに所蔵資料の高度情報化を目指す国際共同研究を行い、その成果として新たに構築するデータベースから世界規模で情報共有するプロジェクトを実施している。それがフォーラム型情報ミュージアム・プロジェクトである。

このプロジェクトでは、これまでデータベースの情報生成性やセキュリティといった技術的な内容については、あまり議論が深められてこなかった。しかし全体計画を進める上でこの議論は避けられず、システム構築のための技術的側面とオンラインでの協働環境作りという基本理念を、同時に検討するために本ワークショップを開催した。

民族学博物館の所蔵資料をソースコミュニティとともに熟覧し、そこで得られた豊かな情報や知識をデジタル化して格納するデータベースが、すでに北米では構築・運用されている。世界的な動向における民博のプロジェクトの位置を確認し、民博が抱える課題を検討するために、ソースコミュニティと民族学博物館との協働の分野において、技術的にも思想的にも中心的な役割を担ってきた専門家を、国立アメリカンインディアン博物館、ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館、ズニ博物館、北アリゾナ博物館、パーク博物館から招聘して議論を行った。

**学術潮流サロン**  
**「公共人類学×公共社会学——学問と社会のつながりを考える」**

日時：2016年2月13日(土)  
場所：国立民族学博物館  
主催：国立民族学博物館研究戦略センター  
企画：河合洋尚

学術潮流サロンは、今年度から一般公開し、人類学とその隣接分野の新しい動向を、アカデミズムの内外に発信することとなった。その記念すべき第1回目のテーマとして選定したのが、公共人類学と公共社会学である。

近年、人文・社会科学では、公共考古学、公共民俗学、公共人類学、公共社会学など、「公共」の二文字を冠する新たな学問領域が生まれている。この潮流は、各分野によって視点と方法の違いがあるが、議論を学問領域に閉じることなく、市民、NGO、企業、学校、メディアなどの公共空間に開いて、学問と社会の双方にとって有益な関係を構築することを目指すものである。

今回のサロンでは、『公共人類学』(東京大学出版会、2014年)の編者である山下晋司と『公共社会学』(東京大学出版会、2014年)の編者である盛山和夫を招き、それぞれの紹介と議論をおこなった。講演では、「人類学がどのような社会貢献をなそうるか」という問題から、「社会の関心からいかに社会学を再考するか」という問題に至るまで、人類学・社会学と社会(公共)との関係について多くの議論が展開された。

